



三和油化工業株式会社

東証スタンダード市場／名証メイン市場

証券コード：4125

2024年3月期 第1四半期 決算補足説明資料

2023年8月9日





2024年3月期 第1四半期 決算概要



2024年3月期 第1四半期

売上高

4,091百万円

【前年同期比】△8.3%

営業利益

414百万円

【前年同期比】△24.4%

営業利益率

10.1%

【前年同期比】△2.1PT

事業環境

- 米中対立、ウクライナ・ロシア情勢の長期化、為替影響等により、資源・エネルギーコストは高水準で推移
- 国内は景気回復が期待される一方、半導体や化学業界の一部では稼働回復遅れや在庫調整も見られる

内部対応

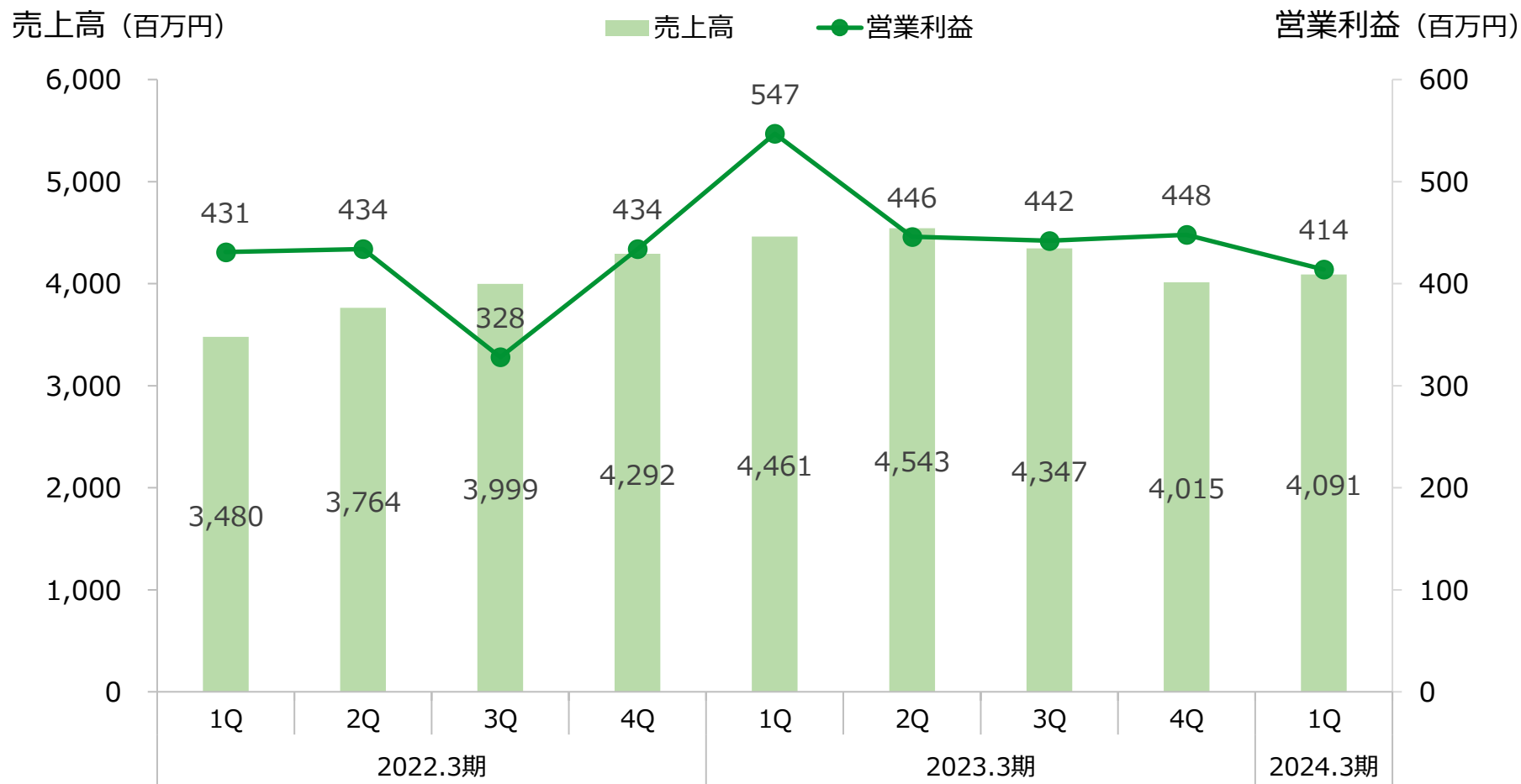
- 産業廃棄物の有効利用やエレクトロニクス業界向けの製品供給に注力
- リサイクル事業は東西拠点を中心に取扱数量が増加、リユース・化学品事業は顧客稼働の影響が大きい

⇒ 第1四半期は顧客の稼働影響を大きく受け、前期比で減収減益

- 半導体や化学業界の一部における稼働低迷影響が大きく、**前年同期比で減収減益**
- 利益率の高いリサイクル事業の伸長、前期から続く化学品事業での価格低下により、粗利率は上昇

(単位：百万円)	2023年3月期 1Q累計		2024年3月期 1Q累計		前年同期比	
	実績	売上高比率	実績	売上高比率	増減額	増減比
売上高	4,461	100.0%	4,091	100.0%	△370	△8.3%
売上総利益	1,296	29.1%	1,232	30.1%	△64	△5.0%
営業利益	547	12.3%	414	10.1%	△133	△24.4%
経常利益	555	12.5%	423	10.3%	△132	△23.8%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	337	7.6%	266	6.5%	△71	△21.2%

- 半導体や化学業界顧客の一部における稼働低迷により、リユース・化学品事業が一時的な伸び悩み
- 幅広い顧客層のリサイクル事業でリスク分散も、人件費等の固定費増加を吸収しきれず、若干の減益

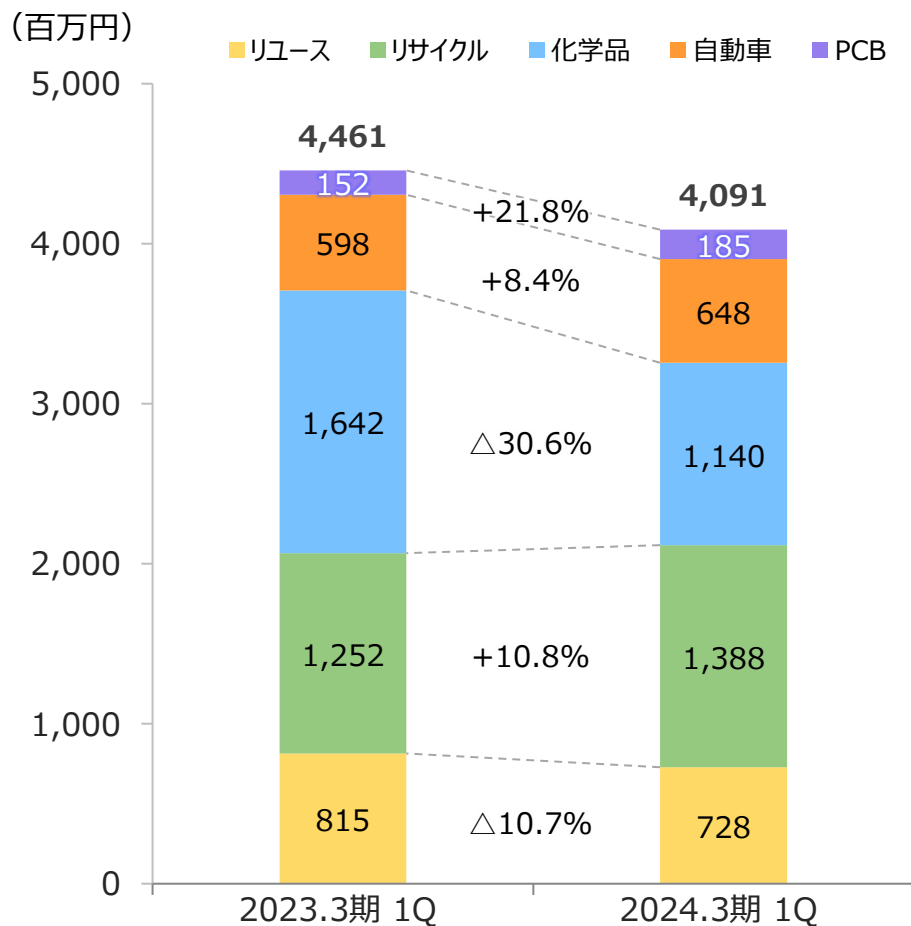


※2022.3期 3Qは上場関連費用等を計上しております

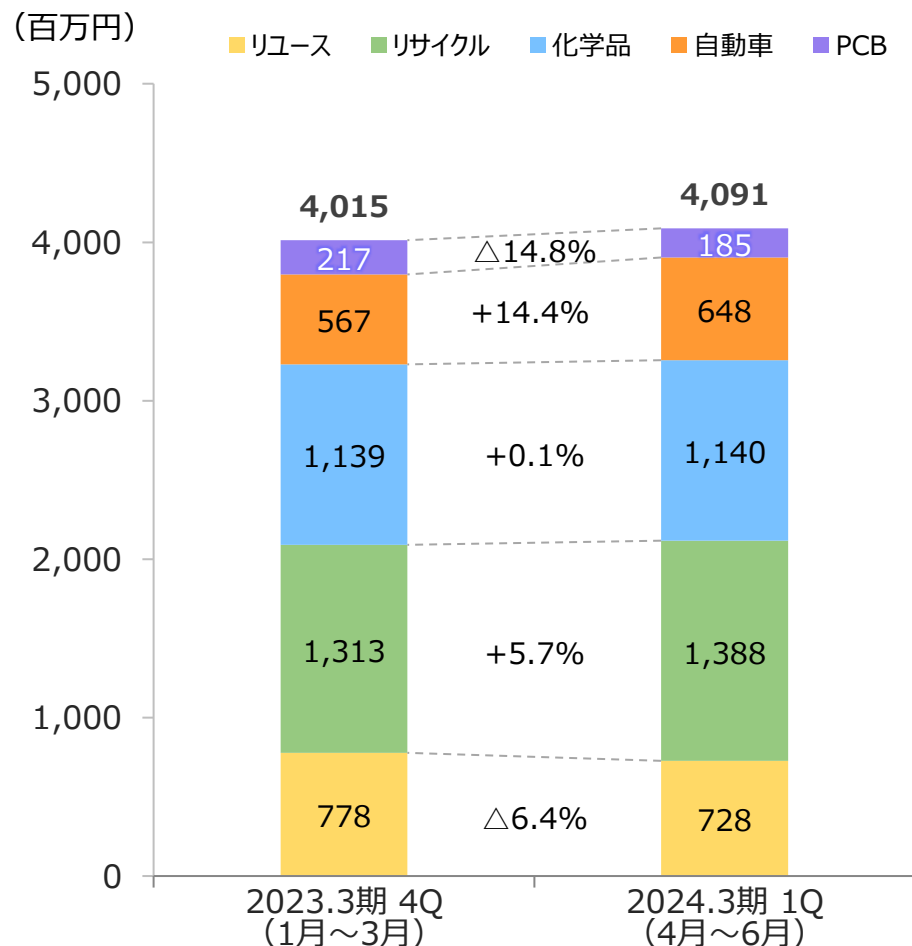
※2022.3期 1Q・2Qの数値については、監査法人によるレビュー対象外であります

- キャパシティ増加したリサイクル事業は安定的に増収、自動車事業は売価への価格転嫁が進んだ
- リユース・化学品事業は半導体・電子部品向けが一時的に低迷、化学品は単価低下も大きい

前年同期比 (YoY)



前四半期比 (QoQ)

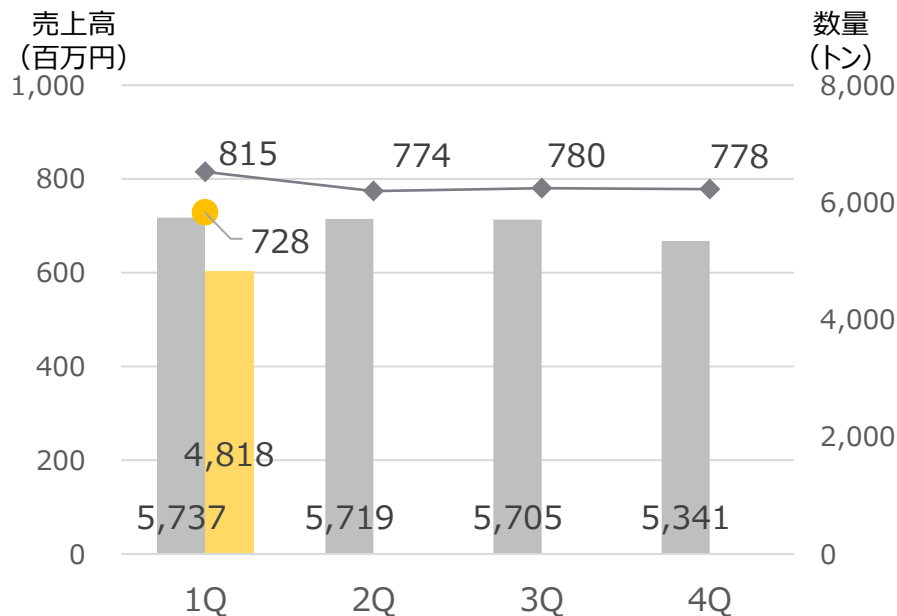




リユース、リサイクル事業（四半期ごとの推移）



リユース事業



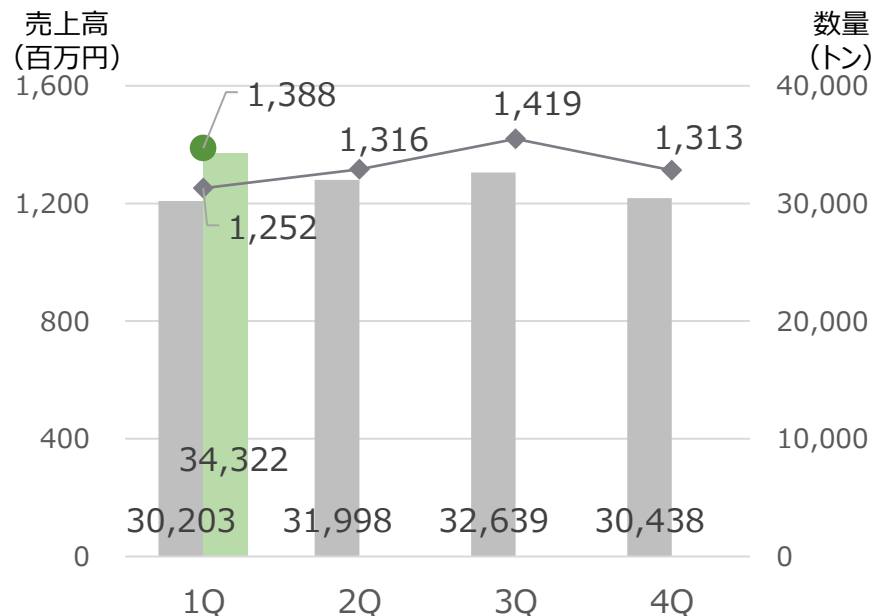
■ 23.3期 再生製品数量 ■ 24.3期 再生製品数量
 ◆ 23.3期 リユース事業 売上高 ◆ 24.3期 リユース事業 売上高

■ リユース事業売上と再生製品販売数量

- リン酸及び一部の溶剤は、顧客の稼働低迷により数量減少
- 再生製品の売価は概ね横ばい、前期1Qは金属スポット案件あり



リサイクル事業



■ 23.3期 廃棄物引取数量 ■ 24.3期 廃棄物引取数量
 ◆ 23.3期 リサイクル事業 売上高 ◆ 24.3期 リサイクル事業 売上高

■ リサイクル事業売上と廃棄物引取数量

- 東西拠点を中心とした廃棄物引取数量増が売上増に寄与
- 幅広い業種との取引により、リスク分散できている

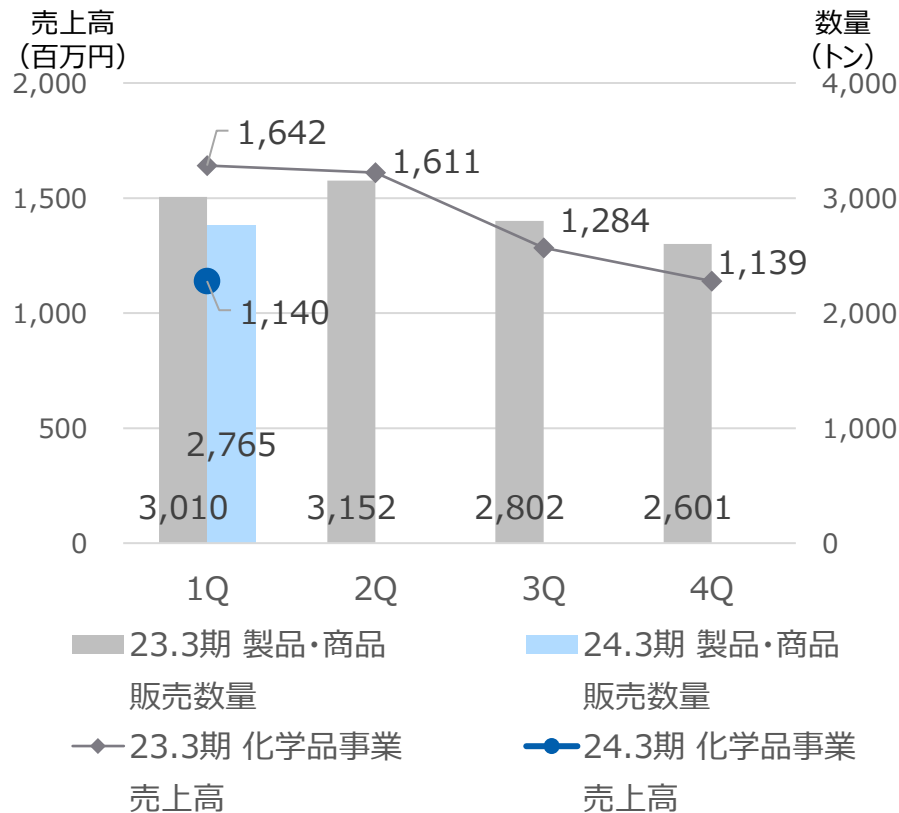
※グラフの数量は各事業別の全体数量ではなく、各事業売上と最も相関がある分類のみを選択しております



※製品・・・当社グループが品質保証する製造品 商品・・・転売品



化学品事業

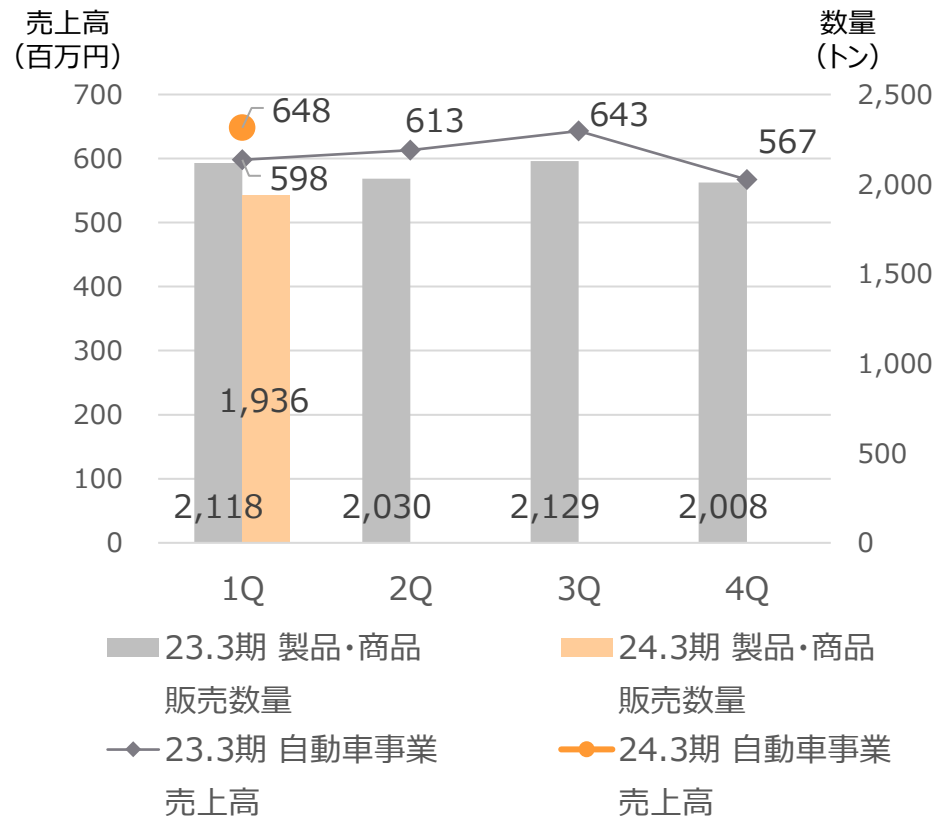


■ 化学品事業売上と製品・商品販売数量

- 前年後半から**半導体関連は減速も、電池向けは堅調に伸長**
- 主要品目での価格低下は継続（マージンは確保）



自動車事業



■ 自動車事業売上と製品・商品販売数量

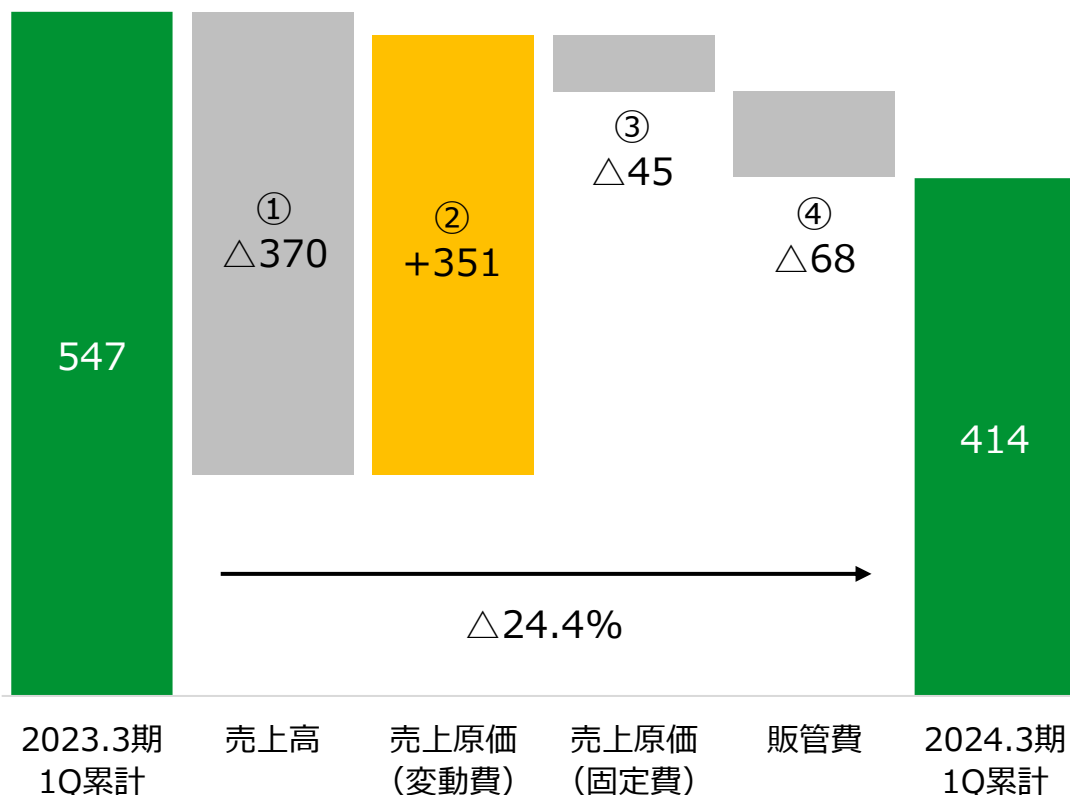
- 完成車メーカーは稼働回復も、ティア2以下では在庫調整継続
- 売価への価格転嫁は進展**、顧客工場での解体作業獲得

※グラフの数量は各事業別の全体数量ではなく、各事業売上と最も相関がある分類のみを選択しております

営業利益増減要因分析（前年同期比）

- リユース事業と化学品事業の売上が大きく減少、特に数量減少によるインパクトは大きい
- 人員増やベースアップ、職場改善等の人的資本投資を先行させており、固定費負担が増大

(百万円)



①売上高

- 〈-〉【RU】半導体、電子部品顧客の稼働低迷
- 〈+〉【RC】東西拠点を中心に数量増加
- 〈-〉【化】電池向け○、半導体向け×、単価低下

②売上原価（変動費）

- 〈+〉【化】半導体向けの原材料が減少、単価低下
- 〈-〉【RC】外部処理先への産廃処理費が増加
- 〈+〉【RU】廃棄物原料の買取費用減少
(前年1Qに大型スポット案件)

③売上原価（固定費）

- 〈-〉人員増、ベースアップによる人件費増加
- 〈-〉投資設備の稼働開始による減価償却費増加
- 〈-〉電力費増加（単価上昇）

④販管費

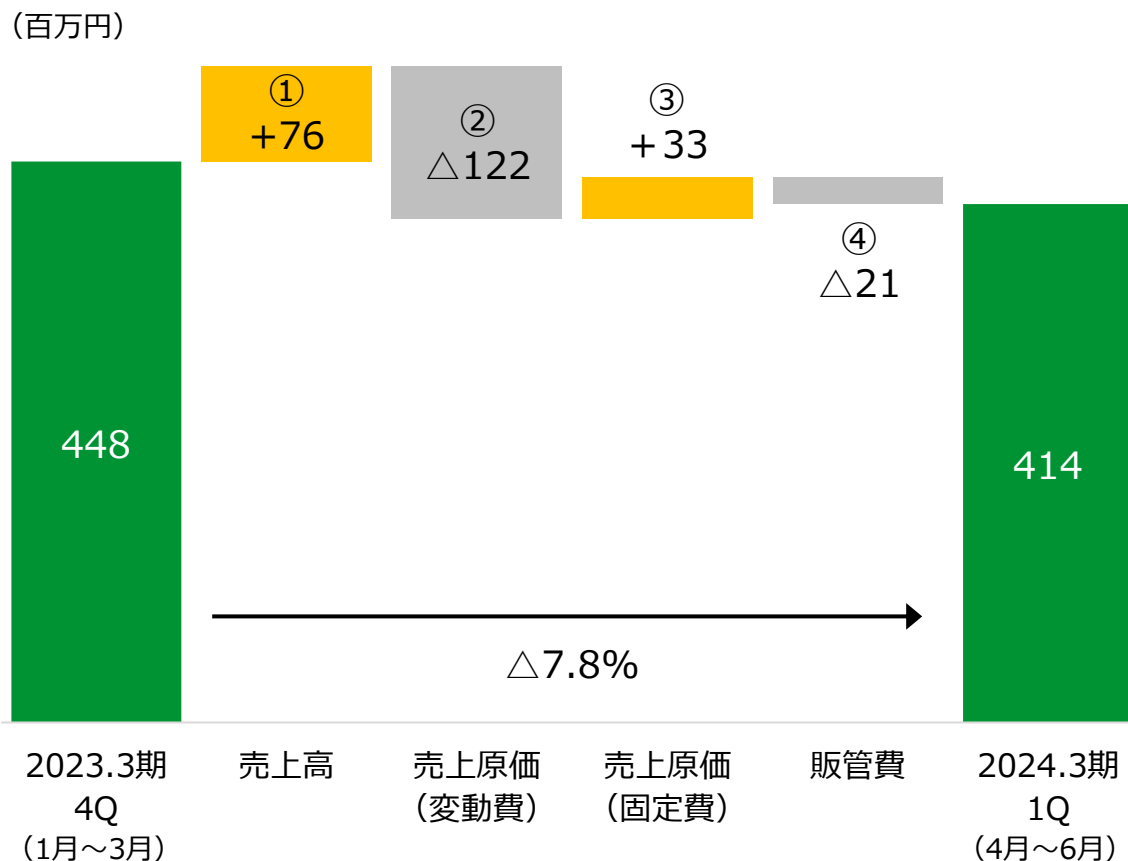
- 〈-〉人員増、ベースアップによる人件費増加
- 〈-〉職場改善費用、DX投資、教育研修費増加

〈+〉利益へプラス要因、〈-〉利益へマイナス要因

【RU】リユース、【RC】リサイクル、【化】化学品、【自】自動車

営業利益増減要因分析（前四半期比）

- 化学品事業の一部品目で価格低下がさらに進行し、在庫の評価額も低下
- ユーティリティ単価は反転したが、人件費等の固定費増加影響が大きい



①売上高

- 〈-〉【RU】半導体、電子部品顧客の稼働低迷
- 〈+〉【RC】東西拠点を中心に数量増加
- 〈+〉【化】電池向け○、半導体向け×、単価低下
- 〈+〉【自】数量は微減だが、価格転嫁が進んだ

②売上原価（変動費）

- 〈-〉【化】棚卸資産の評価額低下
- 〈-〉【RC】外部処理先への産廃処理費が増加
- 〈-〉取扱数量増加に伴い、外注運送コストも増加

③売上原価（固定費）

- 〈-〉ベースアップ、新入社員等で人件費増加
- 〈+〉電力・ガス単価は下降に転じた
- 〈+〉新規稼働設備なく、減価償却費は減少

④販管費

- 〈-〉ベースアップ、新入社員等で人件費増加

〈+〉利益へプラス要因、〈-〉利益へマイナス要因

【RU】リユース、【RC】リサイクル、【化】化学品、【自】自動車

貸借対照表

(単位：百万円)	2023年3月期末	2024年3月期 1Q末	前期末比 増減額	コメント
流動資産	7,506	7,303	△202	現預金が減少
固定資産	13,335	13,331	△4	機械装置、建物、構築物等が減少 投資有価証券が増加
資産合計	20,842	20,635	△207	—
流動負債	4,972	4,885	△87	—
固定負債	4,836	4,491	△344	長期借入金の返済が進行
負債合計	9,808	9,376	△431	—
純資産合計	11,033	11,258	+224	利益獲得と配当支払の差額で剰余金が増加 有価証券評価差額金が増加
負債・純資産合計	20,842	20,635	△207	—



2024年3月期 業績予想



- リサイクル・自動車事業は概ね計画どおり進捗しているが、**リユース・化学品事業は計画比遅れ気味**
- 廃棄物有効利用で付加価値を高めつつ、**半導体や化学業界の稼働状況を注視していく**

(単位：百万円)	2023年3月期		2024年3月期 予想		前期比		2024年3月期 1Q累計	
	実績	売上高比率	実績	売上高比率	増減額	増減比	実績	進捗率
売上高	17,367	100.0%	18,000	100.0%	+632	+3.6%	4,091	22.7%
売上総利益	4,981	28.7%					1,232	
営業利益	1,885	10.9%	1,950	10.8%	+64	+3.4%	414	21.2%
経常利益	1,936	11.2%	1,970	10.9%	+33	+1.7%	423	21.5%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	1,325	7.6%	1,440	8.0%	+114	+8.7%	266	18.5%

【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

三和油化工業株式会社

TEL 0566-35-3021（経営管理部）

URL <https://sanwayuka.co.jp/>

本資料に記載されている、将来の業績に関する計画、見通し、戦略などは現在入手可能な情報に基づき判断したものであり、リスクや不確実性を含んでおります。

実際の業績は、様々な重要な要素により、大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。